産業

早期米の収穫にあたって

早期栽培の収穫期に入ったので、その乾燥調整に際しての特に注意すべき点を挙げると、次の三つがある。

1 刈り取り時期

とかく早期米は、葉が青々としているうちは、まだ熟していないとの判断から、どうしても刈り取りが遅れ勝ちとなる。普通の中晩稲と同じように、葉が黄色になってから刈り取るのではおそきに失する。ワラはまだ真青でも、実際に熟している場合が多い。それを見分けるには、籾の色を見ればよく、黄色味を帯びていれば、その時が適期なのである。

2 乾燥のやり方

この乾燥の途上において、特に留意しなければならないことは、(1)胴割現象、(2)発芽現象である。

(1)胴割れ

もともと、まだ水分の多い籾を、急激に強いて日光で乾せば、早期米ならずとも、胴割れし易いものである。まして早期米を刈り取って、籾を乾燥するのは、八～九月の高温期であるから、籾干しには一そう工夫がいる。先ず刈ったら懸け干し（ハザ懸け）がよい。地干しはなるべく避けたい。ハザ木などの資材がなくどうしても地干しするときは、二日まで置いて、あとは籾で乾かすようにする。懸け干しだったら一週間は置く必要がある。ところで籾を乾すやり方には、改良ムシロ干し、機械干しの二つがある。

(a)改良ムシロ干し

いままでのムシロ干しが、朝、ムシロの上に籾を拡げたら、一日拡げ放しで、時々返すだけだったのを、次のように改めたものである。つまり、朝の一ときと、夕方の、日光が比較的弱い折だけ拡げ、日中は籾を寄せてムシロをかぶせるとか、一カ所に集めて置いをするものである。

(b)機械干し

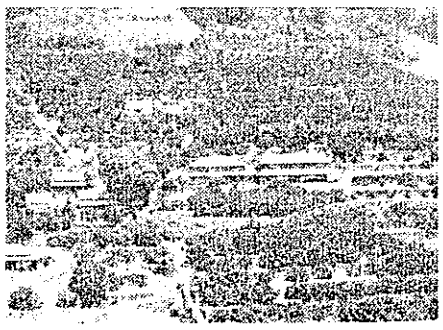
これは、室内で、日光に関係なく通風乾燥するもので条件さえ許せば最も理想的である。

(2)発芽

刈り取ったばかりの籾は、懸け干しの際など、東の籾がほかの東の陰で日光も当らず、風も通さないとか、またすぐ脱穀して籾一なま同様の状態）を、室内等につみ上げて、風通しを与えないと、温室、時期的に気温高く、また温度も昇っているので、どうしても発芽し易い。だから、懸け干しは、ハザ木の組み方を工夫し、間を広く開けて風通しをよくし、籾は特に拡げて風に当てるなどしなければならない。

3 調整上の注意点

焼米とか、醗酵米とかいわれて、玄米が一種の病気にかかると、商品価値が落ちてしまう。これは刈り取りの直後の稲の処理如何によって防ぐことができる。すなわち、乾燥しない生籾を積んだままで放置してはいけない。これにかかった玄米はナメクジが這った後のような斑点を呈し、はじめ卵黄色から赤褐色に変じてくる。もし、籾のうちであれば、ちょうど泥水をかぶった後のような銀色をしているからすぐ判るが、そうなってからでは既に遅いから、そうならないように注意する。



みかんを植えましょう

七ケタ農業（年間百万円以上を生産する農家）二～三年前までは農家の夢はこの七ケタ農家になることでした。然し、今はもう七ケタの夢を追うのは昔のことで八ケタをねらってどんどん事業を拡大して行く者があらわれるなど全く世の中の進展はめざましいものです。

しばらく夢を追ってみよう。……一日八時間労働、週休二日、夫は農場、奥さんは家事、家庭には冷暖房装置があり、電気洗濯機やテレビ、冷蔵庫、掃除機はもちろん、各種農機具、自動三輪車、自家用乗用車、週休二日の内一日は家族づれで自家用車でドライブ、どうも素晴らしい生活です。

これを揃え、維持し更新してゆくには一体年間所得がいくらあればよいか、ちょっと計算してみましょう。

機械器具を全部揃えるのに一寸、百五、六十万円、これに見相った住、衣、食、の改善に百万円、これは一度に出来ないので七～十年の長期計画とし。十年後これが全部揃ったとすると、年間維持費がざっと五十万円もかかります。その他の生活、消費的経費が一人二十万円とすれば、五人家族で百万円、余剰畜産を一戸二十万円とすれば、合計七十万円の年間純益金が必要となります。

これがやっと現在のイギリスの国民生活のレベルで、アメリカは現在この一・六倍です。日本でも都市では十年後の消費生活百二、三十万円は普通となることは確実ですが、農村はどうも困ったものです。百七十万円は純益金であるから、農業総生産から生産費（雇用労力を含む）を差し引いた残りが百七十万円以上になる経営でなければなりません。次に毎年百七十万円の純益を出すことの出来る農業をやるには、どれだけの経営をすればよいかみてみましょう。（現在の経済状態による）

水稲の場合、反当純益三万五千円として六町八反酪農の場合、一頭三十五石養鶏の場合、一羽三百六十五円として四千八百羽みかんの場合、反当純益十万円として一町七反その他、水稲とタバコ、水稲とワ菜園芸、水稲と酪農水稲とみかん、みかんと養鶏、といった組合せも考えられますが、安全作物の専業が、労力的にも技術的とも望ましいものです。

これをみても、いかにみかんが有利であるかおわかりと思うでしょう。団地問題や、栽培技術、資金面で不安な方もあるかと思いますが、此の際みかんの適地にはみかんを植えて農業経営を安定させることを考えましょう。市では、今度農業構造改善計画にっそて、昭和三十六年度より向う十カ年間に五百町歩のみかん園を造成し、毎年七億円の生産をあげる目標の基に、市をあげてみかんの増植に努める方針を立てています。

既耕畑は転作を、林地は開墾によって出来るだけ集団的に（最底一町歩以上）、部落をあげて協同的経営により計画を進めていただきたいと考えます。

十年間に五百町歩ということは、一カ年に五十町歩植えなければなりませんが、今まで市が県の技術員と共に適地調査を行いまして、結果、岡豊地区二百町、上倉地区三百町、瓶岩地区二百五十町、久礼田地区二百町、其の他十市、三和、稲生の地区に百町余、合計千町歩のみかん適地があることがわかっています。

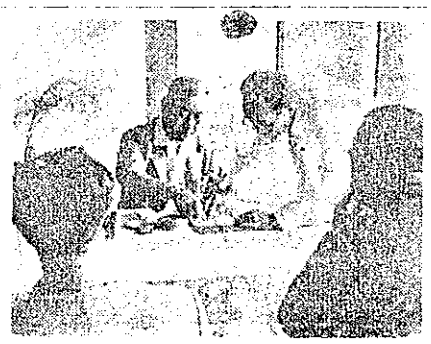
〃農家のみなさん〃私達の部落が素晴らしい理想郷であるよう。みかんを植えることにより将来発展の夢をみようではないか……。

資金が何だ、技術が何だ、やろうと思えば誰でも出来る時代だ。

一番有利な資金をそして一番近代的な経営で……市や農協は指導や、援助をおしまずやってゆきます。適地調査や、開墾計画は遠慮なく、市産業経済課にご相談下さい。

〃写真は美事に成功した開拓地（長崎県）

穴内川電源開発の個人補償基準協定書に調印して



補償問題が解決すれば、その開発工事は六十％の完成だといわれ、公共事業に伴う用地取得が如何に困難かは今更申すまでもなく、穴内川電源開発も知事の諮問以来四年目の去る七月三日やっと、個人補償基準の協定ができましたが、紙面を拝借してこれまでの交渉経過を簡単に述べてみましょう。

補償の内容は、公共、個人、漁業の三つの補償に大別され、これらの問題を処理するための補償要項にもとづき、公共の利益の増進を私有財産との調整を図って適正且つ公正な補償が行われるよう補償問題に取組み、今日まで足かけ四年（通算四百五十余日）を経過し、公共、個人両補償基準の大綱がまとまったのです。この間他の開発地点よりも有利な補償額をと近傍類似の開発地点はもとより、全国各方面に足を延ばし資料を集め、参考図書などを基礎とし、有利で可能な補償額を要求してきましたが、相手は専門の用地屋として十年～二十年の年期を入れたベテランでどれだけ苦労したかわかりません。

個人補償は公共補償とちがって各人の財産評価に直接関係があり、各人各様の意見がなされ、夜を徹しての内部調整も度々で、時には身の危険を感ずるようなこともあり、何度か辞めようと決心したこともありました。

こうした内部事情に加えて利害を同じくする土佐山田町関係地区十四部落を打って一丸とする合同委員会での交渉は、ついに非調が続わず、本年三月南国市委員会は意を決して単独交渉にふみ切ったもので、勢力分野の少ない我々が土佐山田町に先んじて交渉し、若し失敗すれば責任をとることは済まされない事態が来ることは十分覚悟の上であり、委員全員悲壮な決意で交渉に当ったものです。

それまで理論斗争に終始し、一歩も進まなかったものが、理解ぬきでお互に腹を割っての話合いにより、信頼感も出来、順調に進み五十二項目にのぼる要求も数回の交渉で全部終り、山田町をあわてさせたものです。

一方山田町は強気一方で何一つ交渉を持たず内部的な問題もあり結局南国市が決めた同じ基準額で形を変えた知事裁定を受入れ、交渉なしの妥結をみもので、最近の高新に全く事実と違った発表をし、世間態をつくろって居るのは、おかしなものです。

個人補償とともに緊案の黒瀬ノ奈路線産業道路の開発計画も市当局並に関係者方面の協力により具体的に決定し、残留者に対する画期的な補償もようやく軌道に乗ってきました。

決められた補償基準の内定は、非常に複雑で限られた紙面で十分の説明が出来ないのは残念なことです。一つの補償対象物件をおさえていくらだといっても、その人の生われる土地などの割合の関連性により補償が論じられるので、主と、従の関係により総合計画金額がは同じ等級一反の田でも中は三十八万円、乙は三十九万円の場合もあります。

なお、関係地区では今、来月中に個人毎の補償を済ますよう指導中ですでに話合いのついたものは、家屋の取壊しをはじめ、何となく物淋しい土地に変りつつあります。我々委員も転出に残留にそれぞれの道を選ぶわけでありますが、こうした中に完全補償がなされるかどうか、三十九年五月ダム完成の時期までは努力しますので、ご協力を願います。

水没対象物件

家屋　二十三戸　三千世帯

公共建物　四

農地　約八町歩

山林その他　二四町歩

（吉川芳富）

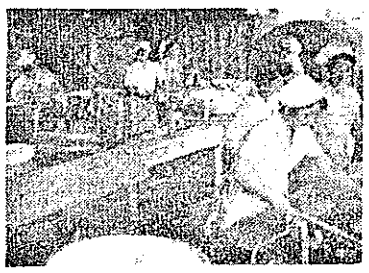
（第5期分）
国保税は
健康は
国保で守り
明るい
笑顔
8月末日までに

野菜の大敵……ネマトーダ

施肥や管理が十分なのに、野菜類のそだちがよくないということをきくが、春作にトマト、ナス、ピーマンなどを栽培した畑に、ホーレン草、大根などをつくるとそだちが悪いことがある。この原因は春作の野菜によって土の中にネマトーダが増加し、その後に植える作物によっては大きな害があるわけである。

作物の生育に害を及ぼすネマトーダとは、三種類あって、コブのできるものはネコブセンチュー、卵のようにいはいったような袋を作るのがレストセンチュー、害をうけた部分が褐色になるのはネグサレンチューという。

この防除としては、連作をさけること、ネマトーダのつきにくい品種を栽培すること、線虫駆除剤を使って直接防除することである。



効果あげる

農繁期共同炊事

市内のことしの農繁期共同炊事は、早いところは本月に入るとともに始まり、効果をあげている。

三十数カ所で二十万食を越す副食物とオヤツがつくられるわけで、地元の材料をつとめて利用している。

また炊事婦も経験者が多く衛生、能率面でも欠けるところがなく、明年の共炊場はどっと増加しそうだ。〃写真はいそがしい共炊場。

生産組合も結成

パイン市内に普及

かつては輸来ものであったパイナップルが、市内ではここ二、三年のうちに伸びたもので、味と大きさも輸来ものと変わらないといわれるとくに優良種を栽培している十市では、大家一氏を組合長とする「十市パイナップル生産組合」を結成し、優良苗を市内外に販売する体勢を固めている。〃写真はみごとに育つた市内のパイン。

かっては輸来ものであった

数千株が栽培されているといわれる。海岸地帯で試作されたものが

農薬は、適期、適量、適正に、

農薬も正しく使えば、害虫も病気も防ぐことができるが、あやまって使うと虫や病気にきかないばかりでなく、かえって害悪になることも注意である。第一に大事なことは、農薬の選び方で、害虫なり病気に合った農薬を選ばねばならない。次に必要なことは、農薬の性質や効力を知ることでたとえばキリドールのようなパラチオン剤は人体に猛毒であるから、取扱いに十分注意しなければならない。第三に大切なことは、農薬の上手な使い方で、害虫が卵からかえったとき、または幼虫のときなどに薬をかけるなど、適量を適期に適正な散布をすることで、農薬を正しく、じょうずに使うことが増収のこつである。

疲れをいやそう

農繁期で酷使した体は、非常に衰弱しています。栄養とともに充分な休養をとりましょう。仕事も大切だが、まず資本である身体を大切にしましょう。

怪談を募る（第二回）

体験談、創作いずれでも結構です、優秀なものにはソット賞を差し上げます。

四百字詰原稿紙四枚以内、一、六〇〇字（員内）

締切は八月末日、投稿先広報委員会。

賞金　1,000円

県外本場の
ヒヨコ
卸値直売
森山種鶏場
南国市大埔（山崎）電話475番

はり・灸
最近療法
津田治療所
後免町栄町電車通り